



# 音声コードとユニボイス がスマホ普及の突破口

全ての視覚障がい者にスマホとユニボイスを

# お話の内容

- 視覚障がい者もスマホで安心
- 視覚障がい者へのスマホ普及状況
- なぜ視覚障がい者へスマホが普及しないのか
- 平等化に向けた動き
- 音声コード&ユニボイスブラインドに注目
- 他の情報メディアとの比較 音声コードの優位点
- 進んでいる自治体
- これからの取り組みの提案
- ボランティアとしての取り組み



# 視覚障がい者もスマホで安心

iPhoneにはボイスオーバ、Androidにはトークバックという画面読み上げ機能があります。音声アシスタント機能もあり見えなくても安心です。



## >> 視覚障がい者もスマホを使えば

- LINEの家族や友達のグループに仲間入りできて**安心**です
- PayPayなどのキャッシュレスでお金の支払いも**安心**です
- Youtubeミュージックやインターネットも**楽しめます**

などなど、晴眼者と同じスマホ生活で**安心**です。





# 視覚障がい者もスマホで安心

≫ カメラとAIが目の代わりになってくれます

- 文章、文字を読み上げてくれます → 郵便物やレシートも**安心**
- 身の回りの物を判別してくれます → 間違いが減って**安心**
- 歩行者信号の色を教えてください → 車道を渡るのも**安心**
- 電柱や車など障害物を教えてください → 白杖が更に**安心**



➤➤ スマホは目の不自由な方の世界を広げてくれます！

# 視覚障がい者へのスマホ普及状況



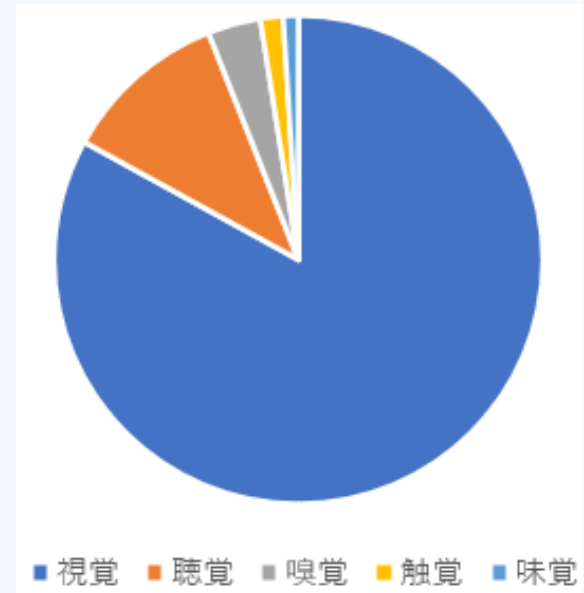
>> 視覚障がい者の、わずか**2割**しかスマホを使っていません！

人間は、情報の8割を視覚で得ており、視覚障がい者は、「情報障がい被害」とも言われます。更に、現代の生活必需品と言えるスマホを使えない視覚障がい者は、取り残されている状況です。

## 視覚障がい者数

- 姫路市 1200人、明石市 820人、加古川市 660人、高砂市 220人文章、兵庫県全体 15000人の

**大多数が、スマホ社会の利益を得ていません**



# なぜ視覚障がい者へスマホが普及しないのか

本人、家族とも**視覚障がい者にスマホは無理！**という先入観

>> 啓蒙活動を行っていますが、全員に伝えられないもどかしさ。。。

- 障がい福祉課、基幹相談支援センター、社協、視障協等を通じた広報
- 民生委員会、ボランティア連絡会、福祉イベントでの広報
- ホームページ、メーリングリストでの広報
- スマホ体験会、スマホ講習会、スマホ勉強会等の実施

➡➡ 行政だけが全視覚障がい者を把握→行政の果たす役割が大

# 平等化に向けた動き

「障害者差別解消法」が制定され、まず行政に対して義務化され、R6年4月から民間企業に対しても義務化されました！

## >> 合理的配慮義務

障害者からサービスを利用したいと意思表示があれば応じること。  
(障害者を門前払いにしてはいけない)

## >> 環境整備

対象者が不特定多数の場合は、仕組みを改善した方が効率的。  
(駅の券売機に点字シールを貼るなど)

**➡➡ 視覚障がい者の情報環境の整備を促進する法的な根拠ができた**



# 音声コード&ユニボイスブラインドに着目！

「視覚障がい者とその関係者全員にアクセスできるのは行政のみ

≫ 行政からの郵送物、配布文書に音声コードがつくと

→ 何これ？と多くの人に関心を持ち視覚障がい者スマホに興味をもつ

→ ユニボイスアプリを使うと簡単に読める事が分かり

→ さらに様々なスマホアプリで生活が楽しくなり口コミで広がる

≫ スマホユーザー、ユニボイスユーザーが増えると

➢ 医療・福祉機関、民間企業も情報伝達手段として音声コードを活用

・処方箋や、薬局の服薬情報、商品の取扱い説明書etcに音声コード

→ 視覚障がい者だけでなく高齢者福祉にも効果が広がる

➡➡ 音声コードが視覚障がい者の情報格差の改善に役立つ！



## ここで、他の情報伝達手段との比較

### >> 行政など提供する側からみると

- 点字はコストが掛かるが、点字の識字率は1割程度でハイリスクローリターン
- 朗読、代読は手間が掛かるが、情報量は少なく、かる利用者は1割程度
- 音声コードは印刷原稿から音声コードを簡単に作成でき、印刷経費も小さい。ローコストで膨大な情報を一斉配布できる、ローリスクハイリターン！

### >> 視覚障がい者からみると

- 点字は読めない人が圧倒的。朗読はプレクストークが必要で自宅のみ。
- スマホのOCRアプリは読み取り精度が低い場合が多い
- 音声コードは、スマホがあればいつでもどこでも正確に読める

# 音声コードが進んでいる自治体

## >> 東京都

「障害者への理解促進および差別解消の推進に関する条例」を制定し、情報保障として環境整備にも取り組んでいる。

- ①障害者施策にかかわる配布物には、音声コードを貼付している。
- ②他に視覚障害者が読む可能性のある配布物には、音声コードを優先的に貼付している。  
例：チラシ、リーフレット、ポスター、広報東京都など。
- ③固定資産税の納税通知書など税金関係の郵便物に音声コード  
他
- ④東京都主催で視覚障害者スマホ教室を実施しており、ユニボイスをカリキュラムの中で扱っている。

# 音声コードが進んでいる自治体

## >> 福岡市

- ①環境整備：『視覚障がいのある方にも、「読める」を当たり前』をスローガンにして、市として音声コードを推進している。対象は、視覚障がい者だけでなく、高齢者や日本語が読めない外国人にも対象を拡げ環境整備をしている。
- ②合理的配慮：希望者には、水道料金のお知らせ、選挙のお知らせ、納税通知書同封書類において音声コードを貼付している。
- ③ユニボイスの使い方サポート  
市役所や携帯ショップ8ヶ所でアプリのインストールや使い方の無料サポートを行っている。これについては、市とキャリア4社が協定を行っている。
- ④民間事業者にも音声コードを  
民間事業者にも音声コードの貼り付けを依頼している。

<参考>福岡市障がい福祉課 「音声コードは視覚障がい者から評判がよい。」

# 音声コードが進んでいる自治体

## >> 神戸市

- ①郵便物についての環境整備：市役所から発送する封筒や選挙の投票の案内封筒などにおいては、一律に音声コードを添付。  
個人向けとなる新型コロナウイルスワクチン接種や暮らし支援臨時特別給付金の案内文書等においては、視覚障害者には音声コードを添付。
- ②文書への環境整備：神戸市障がい者プラン(冊子)、介護保険のあらまし(冊子)などと障害福祉関係の広報印刷物には音声コードを添付するよう進めている。
- ③合理的配慮：水道料金お知らせなどを通知する文書において、希望のあった人には音声コードを添付。他も要望があれば検討する。
- ④市の主催で視覚障害者スマホをはじめとしたICT機器の活用の相談支援を行う事業を、公募により選定した民間の事業者へ委託。

➡➡環境整備が重要。結果、視覚障がい者スマホが普及しているのでは？



# これからの取り組みについて

## >> 行政へのお願い

- ①視覚障害者にスマホをプッシュで周知して欲しい  
行政だけが、どこに視覚障害者が入るかを把握している
- ②スマホ購入の壁を下げて欲しい  
日常生活用具給付制度
- ③環境整備として
  - ・郵送物には音声コードを 視覚障害者は郵便物の仕分けに困っている
  - ・広報誌、福祉関係など周知する文書には音声コードを  
高齢者も含めて多くの人を読めるようになる
- ④マンパワーとしてボランティアの活用を
  - ・音声コードの作成はボランティアに  
点訳ボランティア、朗読ボランティアに続く「音声コードボランティア」

# ボランティアとしての取り組み

視覚障害者を誰一人取り残さない。みんながスマホを手にして晴眼者と同じ土俵に立てるようにしたい。更にスマホのアプリで生活の、質を高めて頂きたい。

≫ 当事者と行政、民間企業の間にとって普及に取り組めます

我々自身で音声コードを作成して

①我々の情報発信に活用

②音声コードボランティアとして団体、企業等に提案し協力していきたい

- ・各市の障がい福祉課、広報課
- ・各市の医師会・薬局
- ・各市の自治会・民生委員会・老人クラブ
- ・民間企業、高齢者施設





